

1. 調査報告概要表

作成日 平成 21年2月28 日

【評価実施概要】

事業所番号	1090900034
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社
事業所名	グループホーム ふゆざくら
所在地	群馬県藤岡市浄法寺1814-1 (電話) 0274-20-3443
評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2丁目29-5
訪問調査日	平成21年2月10日

【情報提供票より】(20年12月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 19 年 9 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1階建ての 階 ~ 1階部分
------	---------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	15,000円(光熱水費)	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	60 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	1 名	要介護2		1 名	
要介護3	2 名	要介護4		3 名	
要介護5	1 名	要支援2		0 名	
年齢	平均 82.3 歳	最低	64 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鬼石病院 ・ 山川歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

管理者・職員は地域に開かれたホームを目指し、地域の行事に参加したり、地域の人々をホームの行事に招待する等、地域住民との交流に努めている。利用者一人ひとりがその人らしく生活できるよう、入浴や外出等で、その日、その時に応じた柔軟な支援が行われている。利用者の気分転換やストレス発散を得られるよう、日常的に散歩や買物、ドライブ、花見等に出かけており、心身の活性に繋げている。庭には、手すり付きの遊歩道が整備されており、外気浴や歩行運動等を行っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価であり、該当なし。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者、職員は評価の意義を理解しており、今回の自己評価については、職員全員で取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1回開催されており、事業所から活動状況報告や前回の検討事項の経過報告等を行い、出席者からの意見・要望を受け、話し合いを行っている。メンバーから出された意見等はサービスの向上に反映させている。地域住民メンバーからの意見により、地域行事(どんど焼き)に利用者・家族・職員で参加し、甘酒やけんちん汁を振舞っていただき、地域の人々との交流を図っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	運営推進会議や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意しており、苦情や意見等聞くように努めている。玄関には投書箱を設置したり、運営推進会議の次回開催案内や会議録を掲示している。管理者が苦情対応窓口になっており、行政機関等の苦情受付先も文書で明示している。出された意見等については話し合い、運営に反映させるよう努めている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	散歩時に地域の人々と挨拶を交わしたり、ゴミステーションの清掃に参加している。運営推進会議の地域住民メンバーの協力を得て、地域の行事には積極的に参加している。事業所の行事には、近隣の人々を招待しており、地域住民との交流に努めている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)グループホームふゆざくら

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	サービスのあり方を解り易く示した、地域密着型サービスとしての事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関・ホールに掲示している。管理者と職員は職員会議等で理念を意識しながら話し合い、日々の生活の場において理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩時に地域の人々と挨拶を交わしたり、ゴミステーションの清掃に参加している。地域の行事には積極的に参加しており、どんど焼きには利用者・家族・職員で参加した。ホームの行事に近隣の人々を招待しており、地域住民との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は評価の意義を理解しており、今回の自己評価については、職員全員で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催されている。ホームから活動状況報告や前回取り上げられた検討事項の経過報告等を行い、出席者からの意見・要望等を受け話し合いを行っている。メンバーから出された意見等はサービスの向上に反映させている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議の時には、市の担当者に相談等しているが、ホーム側からの働きかけは行っていない。	○	市の担当者に対して、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、関係づくりを積極的に行いながらサービスの質の向上に取り組んでほしい。
s					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には、管理者や担当職員が利用者の健康状態や暮らしぶり等を伝えている。状況に応じて電話や手紙で報告することもある。隔月で「ふゆざくら通信」を発行し、家族等に送付している。家族等と金銭管理の取り決めをしており、月1回その出納を明示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族等の来訪時には、話しやすい雰囲気づくりに留意しており、苦情や意見等を聞くように努めている。玄関に投書箱を設置している。出された意見等は話し合い、運営に反映させている。管理者が苦情対応窓口になっており、行政機関等の苦情受付先も文書で明示している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員が代わる場合は、利用者・家族等に紹介している。新入職員には、10日位管理者が対応やケア方法等指導しながら共に支援にあたっている。利用者へのダメージを防ぐため、外出や行事等で楽しみごとの工夫をしながら、馴染みの関係が築かれるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年2回開催されている法人内研修に参加している。消防署の協力を得て、事業所内で救命救急講習を受けている。	○	地域密着型サービスの質は、個々の職員の質によって成りたっている。全ての職員が質を向上させていけるよう、外部研修にはなるべく多くの職員が交代で参加し、それぞれの段階に応じた研修を受講できるよう取り組んでほしい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入している。レベルアップ交換研修等に参加し、同業者と交流する機会を持ちながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族等に見学してもらい、一緒にお茶を飲みながらホームの雰囲気に馴染んでもらえるよう配慮し、納得しての利用に繋げている。入居後も、本人の思いの聴き取りに努め、帰宅や家族等に来訪してもらう等、一人ひとりに合わせた対応をしながら徐々に馴染めるよう支援している。		
kitemorai					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日常の生活場面や会話の中から、人生の先輩である利用者に教えられる事も多く、感謝の言葉をもらう事もある。一緒に過ごしながらか共に支えあう関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で、本人の言葉、表情、行動等から思いや暮らし方の希望、意向の把握を行っている。家族等からも情報を得ながら本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には日頃のかかわりの中で思いや意見等を聞き、介護計画に反映させるようにしている。ケア会議等で職員全員で話し合い、利用者本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは、3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。職員間で話し合い、本人・家族に確認しながら、現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	受診・通院の支援、買物への付き添い、入院中の家族への面会等、本人や家族のその時々要望や状況に応じて柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時、本人・家族等の意向を確認し希望するかかりつけ医で適切な医療を受けられるよう支援している。協力医をかかりつけ医にする場合には、本人・家族等の同意を得ている。夜間の緊急時には、協力医に相談しており、入院が必要な場合は他の医療機関へ連絡してもらうこともある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化対応、終末期ケア対応指針」を作成しており、入居時に本人・家族等に事業所の方針を説明し同意を得ている。状態に応じて、本人・家族の意向を確認しながら、関係者と繰り返し話し合い、全員で方針を決めている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーが損なわれないよう、言葉かけや対応に気を付けている。記録等の個人情報の取り扱いに関しては、秘密保持の徹底を図るよう留意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	散歩、買物、喫煙、一番風呂、就寝時間、洗濯方法や干し方等、一人ひとりの体調やその時の気持ちを大切にしながら、その人らしい暮らしができるよう、出来るだけ個別性のある支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭き、後片付け等、力量に応じて職員と一緒に に行っている。利用者と職員が同じテーブルを囲み、さりげない介助や会話をしながら楽しく食事をしている。 好みの献立や飲み物、手作りおやつ、外食等、利用者の希望を取り入れ支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者・家族の希望に合わせて、いつでも入浴出来るよう支援しており、入浴日は決めていない。午前6時から朝風呂を楽しんでいる利用者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物(干し・たたみ)、食器洗い、花の水遣り、草むしり、菜園づくり、ぬり絵、体操、テレビ鑑賞、誕生会、外出ツアー、季節の行事等で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、畑仕事、ドライブ、大型スーパーへの買物、初詣、地域行事(どんど焼き、祭り等)への参加、季節の花見、外食等、利用者が戸外に出て楽しめるよう、積極的に機会をつくり支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけることへの弊害を理解しており、状況の把握や見守り等により、利用者の安全を確保しながら、日中玄関に鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て避難誘導訓練、消火訓練を実施している。日頃から、地域の人々には協力の依頼をしており、地域の自主防災会組織の緊急時連絡網に事業所も加わっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況を記録し、職員が情報を共有しながら、栄養バランスや食事量、水分量が確保できるよう支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関周りにプランターの花を設置し、玄関には季節の花が飾られている。ホールは採光も十分に開放感があり、ソファが置かれ、畳のスペースには炬燵がある。庭には、手すりを付けた遊歩道が整備されており、自由に歩行運動や外気浴が楽しめるよう工夫している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	箆笥、衣装ケース、仏壇、位牌、家族の写真、カレンダー等馴染みの物が持ち込まれており、一人ひとりが落ち着いて過ごせる場所となっているように見受けられた。		